

のりくら高原ミライズ

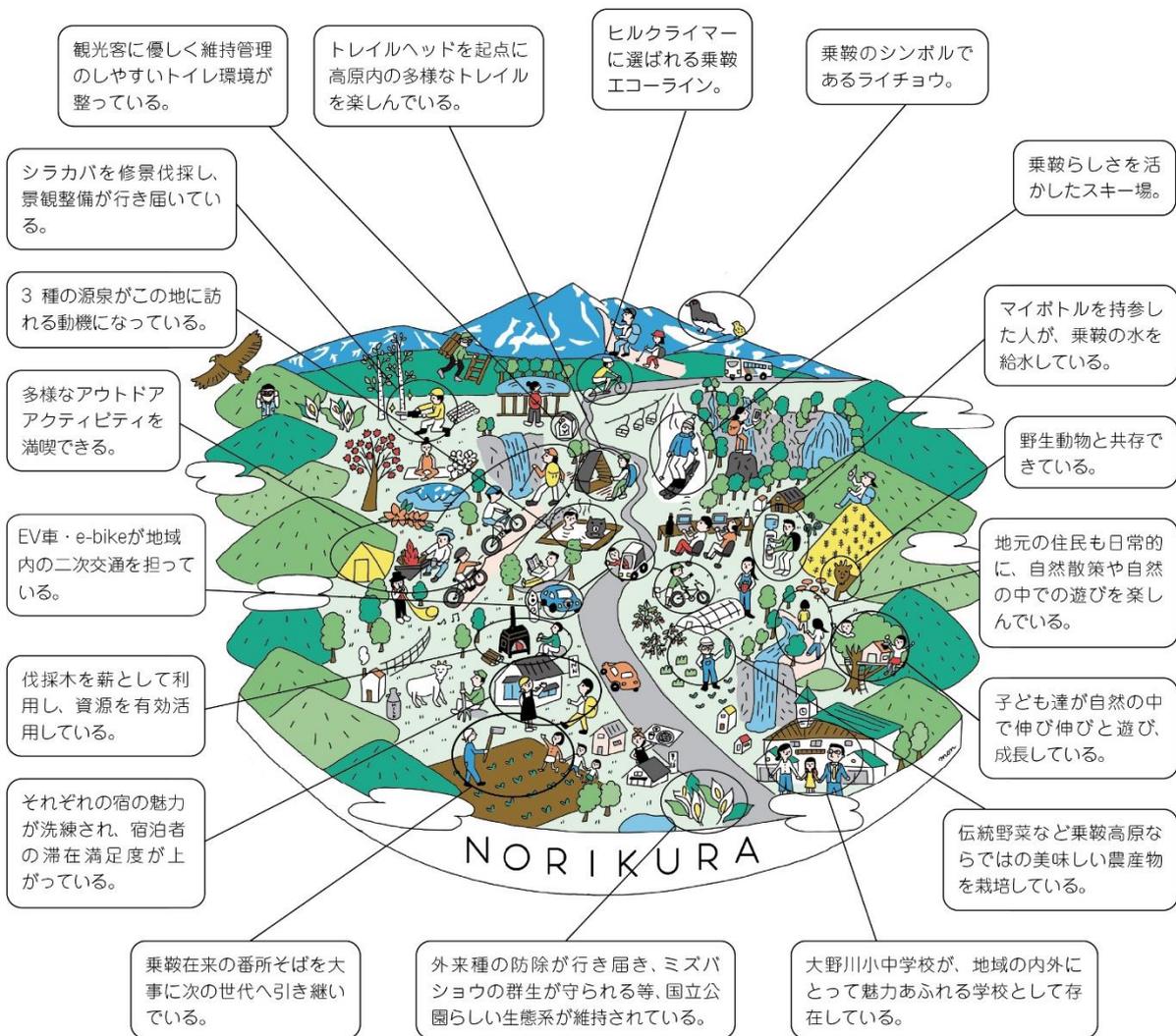


令和8年3月16日
のりくら高原ミライズ構想協議会

表紙絵について

このイラストは、のりくら高原ミライズで掲げたビジョンを元に、地域の理想的な姿を表したものです。この地に暮らす人、この地を訪れる人、この地に関わる人それぞれが、乗鞍高原の地域資源を活かし、生かされて、地域と共に調和的に存在する状態です。様々な立場の方が、この絵の中にご自身の立ち位置を見つける、もしくは書き加えたいくなることで、主体的かつワクワクした気持ちで地域と歩むきっかけになればと思います。

以下に、絵に表現した内容を紹介します。





のりくら高原
ミライズ

乗鞍高原の自然と暮らしが大好きだ。
すももの花が咲く頃、心の底から気持ちがあふれてくる。

自然を活かし、自然に生かされながらここで暮らし、
学生村やスキー、温泉や山岳観光に訪れる方をお迎えしてきた。

そんな乗鞍高原は今、居住人口の減少、観光利用者の漸減、新型コロナウイルス感染症への対応、
変わりゆく地球環境など、社会状況が大きく変化する中で様々な課題に直面している。

しかし、私達は次の時代へと歩みを止めない。
これらの困難に立ち向かうべく、目指すべき姿に向かって想いを一つにした。

— 乗鞍宣言 —

- (1) 私達は乗鞍高原の自然と暮らしが大好きだ。
- (2) 私達はこの暮らしを、未来へと持続させることが使命と考えます。
- (3) 私達は乗鞍高原を愛してこの地を訪れる人々を、心から歓迎します。
- (4) 私達は今日まで培ってきた乗鞍高原らしさをしっかり引き継ぎ、静かで落ち着いていて、
それでいて温かくて優しい山岳観光地域をつくっていきます。
- (5) 私達は地球環境問題の解決に向け、世界の先駆けとして地域単位の取組に率先して取り組みます。

— 30年後に目指す姿 —

乗鞍高原らしい穏やかで優しい自然の中で、乗鞍高原を大好きな人達が豊かに暮らし、手入れの行き届いた自然の中で、乗鞍高原の魅力に共感して訪れる人々に、温泉や地域素材を生かした食事、上質なアクティビティを提供することで、持続可能な山岳観光地域を目指します。



令和3年3月22日
乗鞍高原関係者一同

目次

| | |
|--------------------------------------|----|
| (1) はじめに | 1 |
| (2) 乗鞍高原の現状と課題 | 3 |
| (3) 共有する価値観及び目指すべきビジョン | 5 |
| (4) 地域共通の重点取組事項について | 6 |
| (5) 地域共通の重点取組事項の実施体制 | 7 |
| (6) 重点取組事項の詳細について | 9 |
| 1. 乗鞍高原からはじまる地球環境問題解決に向けた取組 | 10 |
| 2. 人と自然がつながる賑わいのある受入環境づくりの取組 | 12 |
| 3. 観光センター周辺を拠点とした交通・周遊手段確保のための取組 | 14 |
| 4. 豊かな自然資源・生物多様性が確保された乗鞍らしい高原景観を守る取組 | 15 |
| 5. 四季を通じて人が絶えないフィールド環境づくりの取組 | 17 |
| 6. 多様なニーズに合わせた滞在体験の魅力向上の取組 | 19 |
| 7. 乗鞍高原の魅力と誇りを内外に示す情報発信の取組 | 21 |
| 8. 持続可能な暮らし確保に向けた地域住民の生活基盤拡充の取組 | 23 |



(1) はじめに

デジタル化に気候変動、新型コロナウイルス感染症の蔓延と、社会が目まぐるしく変化する時代の中で、乗鞍高原はどの方向へ舵をとっていくのか、令和の時代の幕開けとともにその議論を始めました。

令和元年7月、(一社)松本市アルプス山岳郷は地元からの依頼を受け、ワークショップ及びアンケート調査を通じて「乗鞍地区の未来へ」を作成しました。これは、先人たちが守ってきた乗鞍高原の貴重な財産を再認識し、これからを生きる地域住民の思いをとりまとめた地域の共同概念です。

そして、「乗鞍地区の未来へ」作成の次のステップとして、乗鞍高原の理想像(ビジョン)やその達成に向けた基本戦略等を取りまとめたものが「のりくら高原ミライズ」です。(以下、「ミライズ」という。)これは、地元関係者を交えたワーキング、日々のコミュニケーションを通じて作り上げました。ミライズで定めた基本戦略(重点取組事項)については、毎年その取組の進捗状況を確認し、さらなるステップアップを図る必要があります。また、ミライズは観光地としての視点から乗鞍高原のあり方をまとめたものであり、現時点では日々の暮らしや住民サービスの視点については細かく整理できていないことや、引き続き社会が刻一刻と変化していくことを踏まえると、ミライズについても3~5年に1度見直す必要があると考えています。

ミライズは、乗鞍高原関係者一同が協働で地域づくりをしていくための指針として活用するものです。また、今後地域として進むべき方向性に迷いが生じたときに、今置かれている状況を再確認するために活用していきます。今後、これまでの歴史の上に立ち、乗鞍高原関係者一同が支えあい、真の協働体制を整えて事業を実施していき、中部山岳国立公園における重要な利用拠点として、また、山麓に位置する人と自然の共生が図られている居住地として、さらには、世界をとりまく地球環境問題の解決に向けた地域単位の取組を率先するエリアとして確立した持続可能な乗鞍高原を目指していきたいと思えます。



■ のりくら高原ミライズ策定までの議論の流れ

- 令和元年7月
（一社）松本市アルプス山岳郷が地元住民を対象としたアンケート及びワークショップを実施
- 令和2年1月
アンケート及びワークショップの結果を踏まえ、（一社）松本市アルプス山岳郷が「乗鞍地区の未来へ」を策定
- 令和2年7月
「乗鞍地区の未来へ」を引継ぎ、環境省業務として「乗鞍高原のあり方」について検討を開始。
- 令和2年7月～11月
のりくら観光協会を主たるメンバーとして乗鞍高原コアワーキング（地域づくり分科会、草原再生分科会、フィールド整備分科会、トイレ分科会）を開催。それぞれ2回開催し、現状の整理や課題の洗い出し等を実施。
- 令和2年12月
第1回乗鞍高原ワーキングを開催。乗鞍高原関係者一同（大野川区、のりくら観光協会、アルプス山岳郷、休暇村乗鞍高原、Blue Resort 乗鞍、アルピコ交通、長野県、松本市、環境省）で「乗鞍高原のあり方」について意見交換を行う。
- 令和3年2月
第2回乗鞍高原ワーキングを開催。乗鞍高原のあり方を示した「のりくら高原ミライズ」及び令和3年度以降の実施体制等について意見交換を行う。
- 令和3年3月
「のりくら高原ミライズ」を策定・公表。
乗鞍高原ワーキングを発展的に解消し、「のりくら高原ミライズ構想協議会」を設立。
のりくら高原ミライズに定める取組事項について、地域協働の実施体制により始動。
- 令和8年3月
「のりくら高原ミライズ」を改訂・公表。

(2) 乗鞍高原の現状と課題

私たちは、乗鞍岳山麓の静寂な自然環境に囲まれて、人とつながり、温かみのある生活を営んできました。またその類いまれなる自然環境を活用し、^{そま}杣の村として生活を営み、山岳観光地として多くの利用者を迎え入れてきました。しかし、時の流れとともに状況は著しく変化し、現在、乗鞍高原は3つの危機にさらされています。

■ 乗鞍高原の3つの危機

1. 地球環境問題の影響または社会の変化等により豊かな自然環境が失われる危機

- 石油由来のエネルギーの大量消費、不要なプラスチックの使用
- 止まらない地球温暖化による積雪量の変化、高山帯の縮小
- 生活スタイルの変化による自然環境の管理放棄、シカ・外来種による生物多様性への影響



積雪量が極めて少ないスキー場



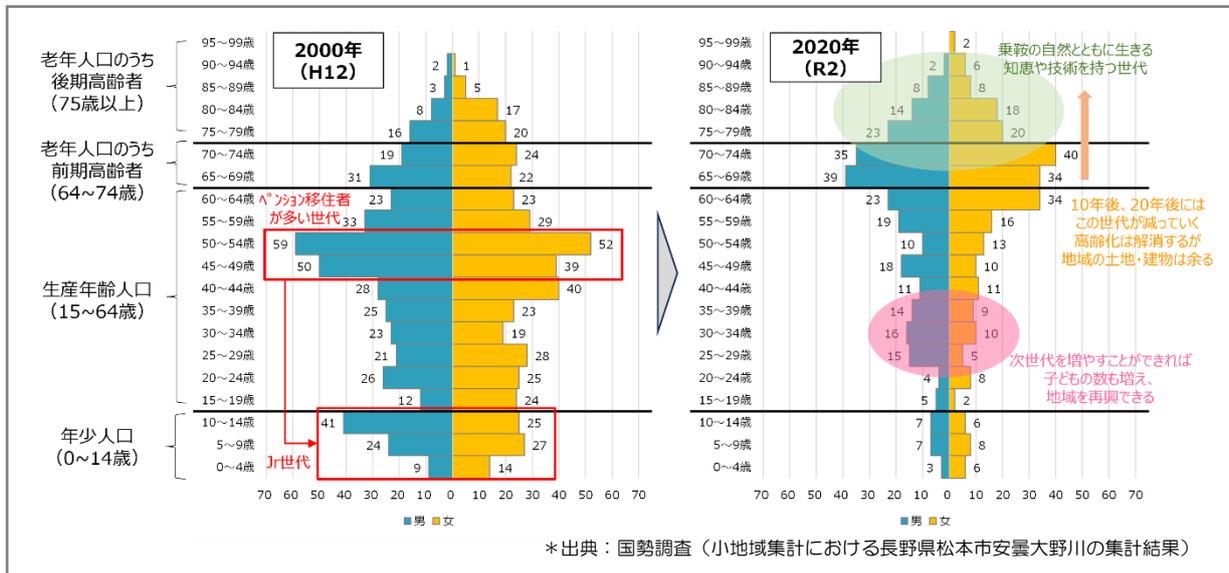
抜いても抜いても繁茂する外来植物

2. 少子高齢化、人口減少等により、安心・安全な暮らしが失われゆく危機

- 若者が職を求めて地域外へ流出
- インフラ等の生活に不可欠な機能が縮小
- 高齢者世帯の増加により、日常生活（ゴミ出し、雪かき、買い物等）の支援や災害時の避難誘導等の対応が必要
- 地域内の児童・生徒数の減少により集団の中での多様な考え方や切磋琢磨する機会が減少し、行事などの集団教育活動に制約が生じている
- 地域住民の交通手段はマイカーが主流であり、観光路線の位置づけとなっている公共交通機

関は、自動車の運転ができない高校生や高齢者等の交通弱者にとっては利用しやすい状況ではない など

<大野川区の人口ピラミッド推移>



3. 豊かな自然観光資源を活かしきれず、山岳観光地として持続できなくなる危機

- 一の瀬をはじめとした景観整備・資源活用の仕組み化および生態系・生物多様性保全が確保されていない
- 乗鞍岳へは乗鞍エコーラインを通じて多くの利用者が訪れているが、乗鞍高原内ではトイレやトイレなど利用環境の整備や適切な利用情報の提供ができておらず、利用者の長期滞在化や新規利用者の獲得の機会を損失している
- 冬季を含めた年間の誘客や利用の平準化ができていない など



管理に手が回っていない一の瀬の草原景観



整備から時間が経ち老朽化した園路

(3) 共有する価値観及び目指すべきビジョン

乗鞍高原が直面している3つの危機に対処し、これまで培ってきた乗鞍高原らしさをいつまでも守り、後世へと引き継ぐべく、地域で共有する価値観及び目指すべきビジョンを以下のとおり定めます。

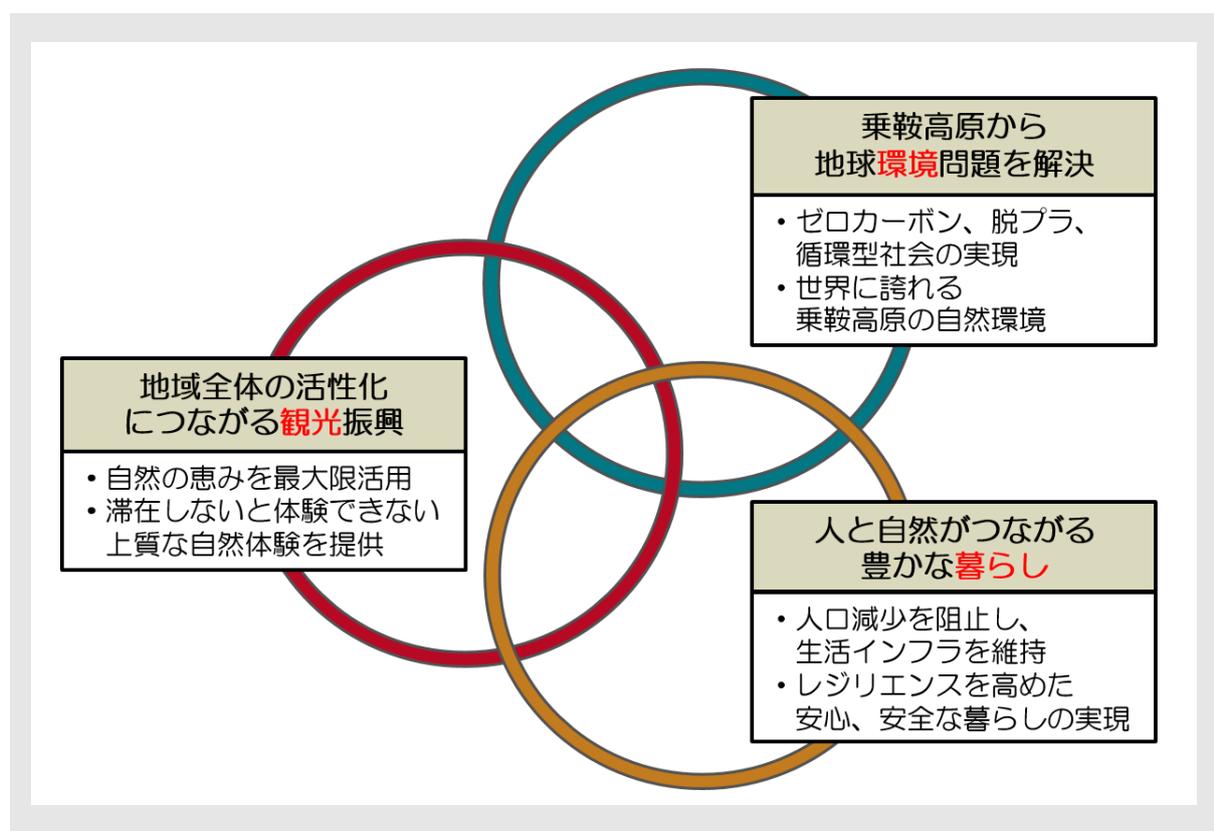
■共有する価値観

「自然を活かし、自然に生かされる、持続可能な暮らしづくり」

(「乗鞍地区の未来へ」より)

■目指すべきビジョン

「環境・暮らし・観光」の3要素を基盤とし、それぞれが相互作用しながら持続可能な地域社会を形成していく。



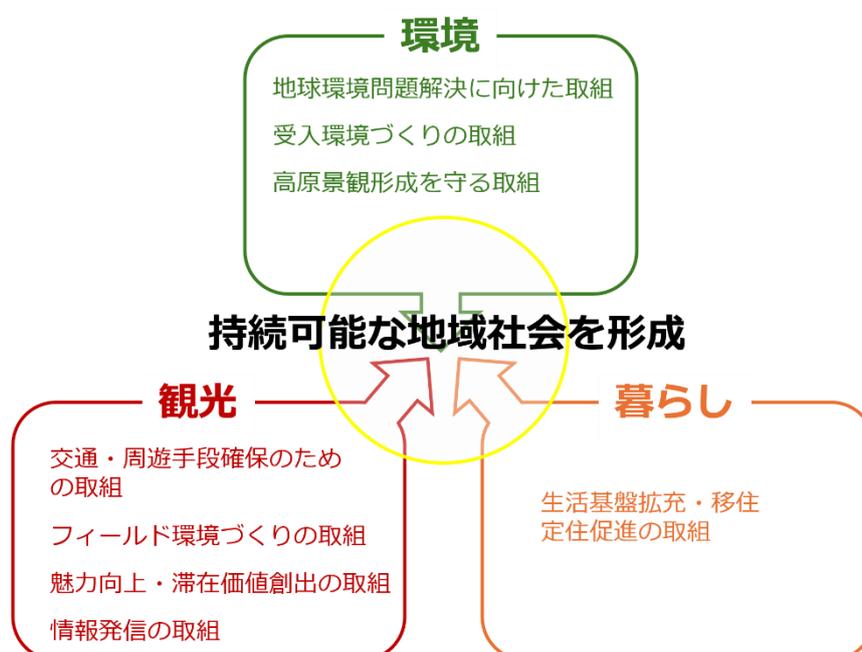
(4) 地域共通の重点取組事項について

乗鞍高原の理想像の実現に向け、以下の8つの重点取組事項を定めます。各項目の詳細については、(6)において整理しています。

ただし、以下の1～8はいずれも目指すべきビジョンにおける「環境・暮らし・観光」の3つの要素を基盤として進めるものであり、いずれの要素も欠けてはならないことを前提とします。当面は、これらについて(5)にある実施体制をもって取り組んでいきます。

1. 乗鞍高原からはじまる地球環境問題解決に向けた取組
2. 人と自然がつながる賑わいのある受入環境づくりの取組
3. 観光センター周辺を拠点とした交通・周遊手段確保のための取組
4. 豊かな自然資源・生物多様性が確保された乗鞍らしい高原景観を守る取組
5. 四季を通じて人が絶えないフィールド環境づくりの取組
6. 多様なニーズに合わせた滞在体験の魅力向上の取組
7. 乗鞍高原の魅力と誇りを内外に示す情報発信の取組
8. 持続可能な暮らし確保に向けた地域住民の生活基盤拡充の取組

重点取組事項が相互に作用した先に、
持続可能な乗鞍高原の地域社会形成を実現していく



(5) 地域共通の重点取組事項の実施体制

■重点取組事項全体の進捗管理及び方向性の確認

- のりくら高原ミライズ構想協議会において重点取組事項全体の大きな舵取りを行います。
- 会長は大野川区長、副会長はのりくら観光協会長とし、事務局は大野川区・のりくら観光協会・松本市アルプス山岳郷・松本市・環境省の5者共同事務局とします。
- ミライズ作成時における協議会構成員は上記事務局に加え、休暇村乗鞍高原、Blue Resort 乗鞍、アルピコ交通、長野県とし、今後も取組状況に応じて乗鞍高原関係者を適宜追加できるものとします。
- 構成員一同が会する総会を年に1回開催し、全体の進捗管理及び方向性の確認、3～5年に1度ののりくら高原ミライズの見直し等を行います。

■個別重点取組事項の実行について

- 重点取組事項の各取組に応じたプロジェクトチーム（以下、PT）を組成し、実行します。
- 各重点取組事項に対応する PT ごとに方針を定め、課題の整理やアクションプランの詳細等を明記し、進捗管理していくこととします。
- 各 PT メンバーには地域関係者のみならず、既存の協議会、委員会（任意団体含む）等の人員を充てることができます。
- 各 PT のコーディネーターとして事務局の担当を別表のとおり割り当てますが、取組状況に応じて適宜追加・変更できるものとします。
- 会議に出席しなくても協議会構成員は各 PT の取組事項に積極的に参画することとします。
- 必要に応じて事業実施前後に横断的なミライズ協議会を開催し、取組状況の進捗確認、課題の検討等を行います。
- 毎年開催する協議会（総会）で、各 PT における重点取組事項の進捗報告を行います。
- PT 横断型の取組事項については、各 PT 間で相互連携を図りながら実施します。
- 新しい課題等に対応するため、必要があれば新たな PT を別に立ち上げるなど、柔軟かつ臨機応変な対応を心掛けます。

のりくら高原ミライズ構想協議会

5者共同事務局



各 PT に対応する事務局伴走体制

| | 脱炭素・脱プラ実現PT | 木の駅PT | 地産地消エネルギー検討PT | 一の瀬・鈴蘭PT | 乗鞍交通・周遊手段確保PT | 草原再生PT | 外来種対策PT | 希少種保全PT | トイレPT | 乗鞍高原トレイルズPT | 滞在体験魅力向上PT | 移住推進PT | 地域生活支援PT | 運営・全体補佐 |
|----------------|--------------------|-------|--------------------|----------|---------------------|--------|---------|---------|-------|-------------|------------|--------------------------|------------------|---------|
| 大野川区 | | ○ | | | | ○ | | ○ | | | | ○ | ○ | |
| のりくら観光協会 | | | | | | | | | ○ | ○ | | | | |
| 松本市 | ○ (環境・地域エネルギー課) | | ○ (環境・地域エネルギー課) | | ○ (アルプスリゾート整備本部) | | | | | | | ○ (地域づくりセンター・移住交流推進課) | ○ (地域づくりセンター) | |
| 環境省 | | | | ○ | | | ○ | ○ | | | ○ | | | |
| 松本市 アルプス山岳郷 | | | | | | | | | | | | | | ○ |

(6) 重点取組事項の詳細について

乗鞍高原の理想像の実現に向けた 8 つの重点取組事項について、項目ごとにその詳細を定めま
す。重点取組事項の内容は、目標・実行分科会・取組の方向性とアクションプランにより構成さ
れます。

目標

⋮ 重点取組事項により実現すべき目標を示しています。

実行 PT

⋮ 重点取組事項をどのプロジェクトチームで実行するかを示しています。

取組みの方向性とアクションプラン【取組主体：目標達成期間】

⋮ 目標を達成するための戦略と戦術（取組主体と目標達成期間）を示しています。



1. 乗鞍高原からはじまる地球環境問題解決に向けた取組

目標

令和2年10月26日、政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにし、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しました。また、令和2年12月18日に松本市も続いて「松本市気候非常事態宣言 ～2050ゼロカーボンシティを目指して～」を表明しました。しかし、日本全国見渡しても、地域一体となって地球環境問題の解決に向けた取組を実践しているところのごくわずかに限られています。

そこで乗鞍高原は、地球環境の変化をダイレクトに受ける一番の当事者だからこそ、次世代を担う子どもと共に環境について学び、観光地的視点、経済的視点、レジリエンス的視点から世界の先駆けとして完全ゼロカーボン・脱プラ地域を実現し、世界のゼロカーボン等の推進に貢献していきます。

主幹分科会

脱炭素・脱プラ実現PT、木の駅PT、地産地消エネルギー検討PT

取組みの方向性とアクションプラン【取組主体：目標達成期間】

■ゼロカーボン・脱プラ地域への挑戦

| 目標 | 具体アクション | 完了期間 | 取組主体 | 達成期間 |
|---|---|-----------------------|---------------------|-----------|
| 利用拠点 施設・各 家庭・各 宿等の脱 プラ化・ ゼロカー ボン化 | ・脱プラ化を推進するため、補助金や支援制度の取りまとめを行い、地域内事業者の具体アクションを推進する | 継続 | 脱炭素・ 脱プラ 実現PT | 継続 25年 |
| | ・各施設での脱プラの状況の情報集約を行い、地域内へ定期的に情報提供を行う | 継続 | | |
| | ・ゼロカーボン化・脱プラ化を推進する意義及びロードマップを整理・要約し、引き続き普及啓発を行っていく。 | R10年度 (3年間)・ 継続 | | |
| | ・各宿舎、店舗等で脱プラボトルを使用、アメニティを提供しない等の取組を順次実施し、取組み結果についてはのりくら観光協会のwebサイトやサステナブルマップ「のりくら高原お山の恵みマップ」等へ反映していく。 | 継続 | | |

| | | | | |
|--|--|----------------|--|--|
| | ・各家庭、各宿等のゼロカーボン化に向け、補助金や支援制度の取りまとめを行い、具体アクションを推進する | 継続 | | |
| | ・ゼロカーボン化による（経済的）メリットを収集し、地域内へ情報提供を行う | R10年度 (3年間) | | |

■地域資源（自然資源）の循環型活用への挑戦

| 目標 | 具体アクション | 完了期間 | 取組主体 | 達成期間 |
|-----------------------------------|-----------------------------------|---------------|-------|------|
| 乗鞍高原周辺の伐採木・流木の利活用により地域資源の循環型活用を実現 | ・現在行っている大野川区有地や松本市有地での修景伐採を継続して行う | 継続 | 木の駅PT | 継続 |
| | ・伐採木を薪として販売する | 継続 | | |
| | ・奈川渡ダムの流木を薪として利用できるように実証等を行う | R9年度 (2年間) | | |

■地産エネルギー創出・活用への挑戦

| 目標 | 具体アクション | 完了期間 | 取組主体 | 達成期間 |
|-------------------------|-----------------------------------|-----------------|----------------|------|
| 乗鞍高原内の需給電力の地産エネルギー活用を実現 | ・セミナー・勉強会等の開催 | R10年度 (3年間) | 地産地消費エネルギー検討PT | 25年 |
| | ・地産エネルギーの実証、実装 | R32年度 (25年間) | | |
| | ・再エネ切替の検討を行い、各家庭、各宿等のゼロカーボン化を推進する | R32年度 (25年間) | | |

2. 人と自然がつながる賑わいのある受入環境づくりの取組

目標

利用拠点と生活拠点が混在している乗鞍高原において、今後の利用状況の変化や人口減少等の社会状況の変化に対応するために各拠点のあり方を見直す必要が生じています。

これまでに、鈴蘭地区及び一の瀬地区において必要な機能を整理や拠点整備を進めてきました。引続き拠点整備を進めるとともに、一の瀬へのアクセス方法等の観点から見直しが必要な部分については再検討をしたうえで必要な整備を図ります。そのうえで、地域全体のリデザインを進め、拠点間連携を図ることで、乗鞍高原全域がリアルな自然体験の場として、また地域住民の暮らしの場として、ユニバーサルデザインの観点からも人と自然がつながる賑わいのある地域を実現します。

主幹プロジェクトチーム

一の瀬・鈴蘭 PT

取組みの方向性とアクションプラン【取組主体：目標達成期間】

■乗鞍高原のゲートウェイとして、鈴蘭地区周辺の上質化（観光センターの上質化及び自然保護センターのさらなる活用の検討）に挑戦

| 目標 | 具体アクション | 完了期間 | 取組主体 | 達成期間 |
|--|--|----------------------|---------------|------|
| 観光センターの上質化及び自然保護センターのさらなる活用により賑わいのある受入環境をつくる | 松本市乗鞍観光センターの建て替え（暫定案） （R8：着工、R10前期：建物完成（仮共用）、R10後期：既存建物解体、R10～11：跡地整備、林道改良） | R11 年度 （工期：R8～11） | 松本市 | 5年 |
| | 乗鞍自然保護センターの、自然体験の拠点としての活用策検討 | R10 年度 （3年間） | 長野県、一の瀬・鈴蘭 PT | |

■自然、文化、歴史などの乗鞍らしさを今後も伝承できる空間として、一の瀬地区の上質化に挑戦

| 目標 | 具体アクション | 完了期間 | 取組主体 | 達成期間 |
|-------------------------------|---|-----------------|-------------|------|
| 乗鞍高原を象徴する場所として、一の瀬草原に多くの人が訪れる | ・まいめの池駐車場について、現在の駐車台数と同規模かつ、カジュアルな利用者の誘客につながるような見栄えの良い整備内容を再検討したうえで整備を行う | R10 年度 (3年間) | 環境省 | 3年 |
| | ・一の瀬草原ならではの自然や地域の歴史に触れられる学びの場を提供することを目指し、多様な来訪者に対して一の瀬全体において周遊性を高めるための検討を行う | R10 年度 (3年間) | 環境省 観光協会 | |
| | ・車いすの介助等、ソフト面でのバリアフリー対応について検討を加速する | R10 年度 (3年間) | 観光協会 | |

3. 観光センター周辺を拠点とした交通・周遊手段確保のための取組

目標

乗鞍へ来訪する観光客の多くは地方観光や周遊観光での利便性からマイカー・レンタカーを利用しています。CO2削減の観点からは、マイカー・レンタカーよりも路線バスの利用が望ましく、また乗鞍高原内の移動においては徒歩や自転車の利用が望ましいと言えます。

そこで、観光センターを拠点とした滞在時間の拡大、CO2削減を目的として、交通・周遊手段確保を目指します。

主幹プロジェクトチーム

乗鞍交通・周遊手段確保PT

取組みの方向性とアクションプラン【取組主体：目標達成期間】

■ 来訪者が活用できる交通・周遊手段確保への挑戦

| 目標 | 具体アクション | 完了期間 | 取組主体 | 達成期間 |
|-------------------------------|-------------------------|-----------------|-----------------------|------|
| 拠点となる乗鞍観光センターの上質化及び交通・周遊手段の確保 | ・乗鞍観光センターを拠点としたモビリティの検討 | R10 年度 (3年間) | 乗鞍交通・ 周遊手段 確保PT | 5年 |
| | ・一の瀬草原への多様なアクセス方法の検討 | R10 年度 (3年間) | | |
| | ・乗鞍エリアと他エリアのシームレスな移動の検討 | R10 年度 (3年間) | | |

4. 豊かな自然資源・生物多様性が確保された乗鞍らしい高原景観を守る取組

目標

乗鞍高原の一の瀬では、かつて多くの牛馬が放牧されて草原が維持されてきたことにより、素晴らしい高原の景観や、草原ならではの生物多様性が維持されてきました。近年の放牧の減少・消滅によって草原の森林化が進行し、昔のような草原景観や生物多様性が失われつつあります。高原内には他にも乗鞍岳を眺望できるスポットが数多く存在しますが、人の管理の手が及ばない、もしくは景観形成の連携不足により、その魅力を十分に引き出せていない場所もあります。また、外来生物の侵入等によっても既存の生物多様性の減少が懸念されています。

そこで、訪れた利用者に感動を与え、住人の日々の暮らしを彩ること及び、乗鞍地域本来の自然環境を守ることを目的として、一の瀬等の重要エリアにおける修景伐採や希少種保全、地域全体の優先度に基づいた外来種対策を行います。

主幹プロジェクトチーム

草原再生 PT、外来種対策 PT、希少種保全 PT

取組みの方向性とアクションプラン【取組主体：目標達成期間】

■乗鞍高原らしい在来植生と景観の維持・再生への挑戦

| 目標 | 具体アクション | 完了期間 | 取組主体 | 達成期間 |
|--|--|------|---------|------|
| 一の瀬草原をはじめとした場所で草原再生作業を継続し、乗鞍高原らしい植生と景観を維持・再生することで、利用者の満足度が向上する | ・「草原再生の手引き」におけるゾーニング計画に基づき地域共同による草原再生作業の継続 | 継続 | 草原再生 PT | 継続 |
| | ・3年毎にゾーニング内容を点検し、実態に合わせて見直す | | | |
| | ・持続可能な協働体制の構築に向けた、人材育成・収益化にかかる検討 | | | |

■外来植物の分布拡大・侵入防止への挑戦

| 目標 | 具体アクション | 完了期間 | 取組主体 | 達成期間 |
|----------------------------|-----------------------|------|---------|------|
| 外来種駆除を推進し、乗鞍地域本来の自然環境を保全する | ・地区ごとの駆除会の開催/駆除作業の継続 | 継続 | 外来種対策PT | 継続 |
| | ・外来種駆除イベントの実施 | | | |
| | ・外来種繁殖拡大状況・分布等の調査実施 | | | |
| | ・作業人員および継続予算化の仕組み化の検討 | | | |

■希少な動植物の保全への挑戦

| 目標 | 具体アクション | 完了期間 | 取組主体 | 達成期間 |
|--------------------------------|------------------------|----------------|---------|------|
| 希少種の保全対策を行うことで、乗鞍地域の生物多様性を維持する | ・希少な動植物の生息状況モニタリング | 継続 | 希少種保全PT | 継続 |
| | ・希少な動植物の生息環境の維持・増大 | 継続 | | |
| | ・違法採取を防ぐための仕組みづくり | R8年度 (1年間) | | |
| | ・ニホンジカによる被害対策の検討 | R10年度 (3年間) | | |
| | ・希少種保全の取組についての発信や連携の推進 | 継続 | | |

5. 四季を通じて人が絶えないフィールド環境づくりの取組

目標

乗鞍高原内には乗鞍三滝、原生林の径など長期滞在して楽しんでもらいたい魅力的なトレイルが張り巡らされているが、利用は乗鞍高原来訪者の一部のみに限られており、その活用度は低い状況にあります。自転車利用については、乗鞍ヒルクライムレースなどの影響もあって多くの利用者が来訪しているもののヒルクライムのみ利用が主となるなど、トレイルを活用したマウンテンバイクアクティビティや自転車以外のトレイル利用に発展させられていません。

また、各利用拠点には本来快適・上質なトイレがあることが望ましいが、行政による常設のトイレ整備が追いついておらず、また乗鞍高原全体のトイレ利用環境に関する計画がないためにトイレ利用環境の適正化が十分に図られていません。

そこで、トレイル・トイレ等の自然体験フィールドの磨き上げを図り、乗鞍高原の自然や歴史、文化を体験できる上質なアクティビティを提供することで利用を多目的に促進し、四季を通じて人が絶えないトレイルを実現します。さらにトレイル利用が日々の暮らしに組み込まれるよう地域住民にとっても誇りのあるトレイルを実現します。

主幹プロジェクトチーム

乗鞍高原トレイルズPT、トイレPT

取組みの方向性とアクションプラン【取組主体：目標達成期間】

■トレイルの新規ルート設定・維持管理を持続する抜本的な環境整備づくりに挑戦

| 目標 | 具体アクション（記載例） | 完了期間 | 取組主体 | 達成期間 |
|----------------------------|-------------------------------|-----------------|---------------------|------|
| 乗鞍トレイルズを活用した誘客および維持管理体制の構築 | ・トレイル整備継続における資金づくりの計画策定 | R10 年度 (3年間) | 乗鞍高原 トレイルズ PT | 3年 |
| | ・継続的なトレイル整備 | 継続 | | |
| | ・トレイル利用者増加、及び整備資金獲得のためのイベント実施 | 継続 | | |
| | ・トレイル利用者増加のためのプロモーション | 継続 | | |

■乗鞍高原全体のトイレ環境の適正化を行い、老若男女安心してトレイル等を利用できる環境の実現に挑戦

- ・特に乗鞍高原内のトイレで利用満足度の低かった一の瀬について、関係者による清掃と環境省によるリニューアルで満足度が回復している。チップ制も順調なスタートを切った。新しいシステムのトイレの出現を待ちつつ、お客様目線に立ったトイレになるよう協力したい。

【のりくら観光協会・環境省・松本市：永続】

| 目標 | 具体アクション | 完了期間 | 取組主体 | 達成期間 |
|----------------------------|---|----------------|-------|------|
| お客様最優先の観光地にふさわしいトイレ環境を構築する | <ul style="list-style-type: none"> ・携帯トイレブースの継続メンテナンス ・季節によってことなるニーズに応じて、柔軟に対応する。 ・トイレ（携帯ブース）が必要な場所をリサーチする。 | R10年度 (3年間) | トイレPT | 継続 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・各利用拠点の入口にある「拠点トイレ」と、拠点トイレを補う「携帯トイレブース等」の配置計画を再検討し、トイレ環境の適正化を図る | R9年度 (2年間) | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・観光地として携帯トイレキープの必要性を再認識する ・トイレだけでなく災害用備品をストックしておく場所を充実させる ・マイメトイレの利用調査・ツツジ富士山トイレの継続か撤去かを再調査（地域内から継続希望の声あり）。 | R10年度 (3年間) | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・使用後の携帯トイレ及び富士山トイレの廃棄の仕方を再検討 ・ウェブ上だけでなく、トレイルの入口やトレイルマップ等に正確なトイレ位置のわかりやすく表示する | R8年度 (1年間) | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・焼岳の新中の湯ルートにトイレがない問題について、対策（ニーズを調べる、ふさわしいトイレのかたちを検討する、携帯トイレブースの設置等）の検討を進める。 | R10年度 (3年間) | 観光協会 | |

6. 多様なニーズに合わせた滞在体験の魅力向上の取組

目標

のりくら高原ミライズのビジョンには「持続可能な地域社会の形成」を掲げており、各事業者の経営の持続可能性だけでなく地域全体の持続可能性を検討していく必要があります。

乗鞍高原では国立公園にも含まれる豊かな自然環境のなかで観光業が営まれています。すでに地域で提供されているアクティビティや食、宿泊のなかで乗鞍高原ならではの素晴らしい体験が多くあります。これらの価値の高い体験を整理し再認識することで、インバウンドを含めた地域の価値を分かる来訪者へ適切なサービスを適正な価格で購入してもらえる可能性が高まっています。

そこで、地域の自然環境を守りつつ、先人たちの自然とともに生きる知恵や技術を吸収し、次世代に引き継いでいくことで、素晴らしい自然環境やそれらと共存してきた生活・文化・歴史に基づく感動や学びの体験を提供していきます。これにより、関係者と来訪者が共に素晴らしい自然環境・地域を未来につないでいく関わり方を作り、保護と利用の好循環による地域の活性化を目指します。

主幹プロジェクトチーム

滞在体験魅力向上 PT

取組みの方向性とアクションプラン【取組主体：目標達成期間】

■ 地域全体の高付加価値化および持続可能な地域づくりに挑戦

| 目標 | 具体アクション | 完了期間 | 取組主体 | 達成期間 |
|---------------------|---|-----------------|--------------------------|------|
| 滞在体験 の高付加 価値化 | ・地域協働実施体制の構築 | R12 年度 (5年間) | 環境省・ 参画事業者 | 5年 |
| | ・高付加価値な宿泊施設の開発 | R12 年度 (5年間) | | |
| | ・地元ガイド等との連携による滞在型ツアー・プログラムの造成 | R12 年度 (5年間) | | |
| | ・住まいの確保・住み替え（移住希望者や従業員向けの住宅の整備、高齢者の住み替え等） | R12 年度 (5年間) | 環境省・参画事 業者・移住推進 PT | |

| | | | | |
|-------------|--|-----------------|------------------------|----|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・一次交通・二次交通（エリア内の移動、高校生の通学や高齢者の通院等の支援等） | R12 年度 （5年間） | 環境省・参画事業者・乗鞍交通周遊手段確保PT | 5年 |
| 訪問者の滞在時間の増加 | <ul style="list-style-type: none"> ・温泉や一の瀬草原など、畳平の往復だけではない乗鞍高原全体の魅力を伝える | R10 年度 （3年間） | 滞在体験魅力向上PT | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園ならではの素晴らしい景観のなかでの滞在の魅力を伝える | R10 年度 （3年間） | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・魅力的な食事、おいしい水など飲食の魅力を伝える | R10 年度 （3年間） | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・泊食分離に対応する飲食施設の提供を進める | R12 年度 （5年間） | | |

7. 乗鞍高原の魅力と誇りを内外に示す情報発信の取組

目標

乗鞍高原は、日本一標高の高い道路であるエコーラインにより高山帯までバス等で手軽にアクセスができることや本州随一のパウダースノーを楽しむことができる山岳観光地として、全国的な知名度に自信があります。しかし、それだけではない、滞在するからこそ体感できる乗鞍高原の魅力を利用者へ適切に届けられておらず、乗鞍高原の来訪者に奥深い体験をしてもらうための動機づけ（プロモーション）ができていません。

さらに、乗鞍高原での持続可能な観光地域づくりを推進するにあたり、地域の事業者や住民の方の理解や参画を促進することで地域一体となった取組の継続性を担保する必要もあります。

乗鞍高原の価値・魅力については、令和6年に「中部山岳国立公園南部地域インタープリテーション全体計画」（以下「IP計画」という。）で整理がされています。

そこで、乗鞍高原の魅力について、その時代に合った戦略的な対外プロモーションを実施することでさらなる来訪者の獲得・長期滞在化及びリピーター化を実現すること、および地域の価値や取組の意義を地域内に発信することで持続可能な観光地づくりを実現することをめざします。

なお、活動の進展に伴い乗鞍高原の価値・魅力の再整理が必要な場合はIP計画の更新を行います。

主幹プロジェクトチーム

協働事務局（観光協会・アルプス山岳郷・環境省・松本市・大野川区）

取組みの方向性とアクションプラン【取組主体：目標達成期間】

■戦略的なアウトプロモーションの実施により、来訪者のさらなる獲得に挑戦

| 目標 | 具体アクション | 完了期間 | 取組主体 | 達成期間 |
|----------------------|--|-----------------|----------------|------|
| 戦略的プロモーションによる来訪人口の増加 | ・WEB等を活用したオンラインプロモーションの実施／パンフレット等を活用した旅中情報発信の実施 | 継続 | のりくら観光協会・ | 継続 |
| | ・学習旅行・企業研修/視察・外部投資を呼び込むためのセールス活動の実施（中部山岳国立公園オフィシャルパートナーシップ等との連携） | R12 年度 (5年間) | 松本市アルプス山岳郷・環境省 | |

■ インナープロモーションを実施し、乗鞍高原の魅力や価値についての
地域住民の意識統一に挑戦

| 目標 | 具体アクション | 完了期間 | 取組主体 | 達成期間 |
|-------------------------|-------------------------|-----------------|--------------|------|
| 地域内情報共有によるミライズへの関わり率の向上 | ・地域回覧等を活用した地域内情報周知の実施 | R12 年度 (5年間) | 大野川区・ 松本市 | 5年 |
| | ・松本市広報誌等を活用した地域内情報周知の実施 | R12 年度 (5年間) | | |

■ インタープリテーション計画の活用・更新

| 目標 | 具体アクション | 完了期間 | 取組主体 | 達成期間 |
|----------------|---|------|-----------------|------|
| IP 計画を活用した情報発信 | ・ IP 計画で整理した地域の価値・魅力を、ミライズとしての情報発信にも活用する | 継続 | 環境省・アルプス山 岳郷 | 継続 |
| | ・ 活動の進展に伴い新たに整理が必要になった地域の価値・魅力を IP 計画に反映させる | 適宜 | | |

8. 持続可能な暮らし確保に向けた地域住民の生活基盤拡充の取組

目標

乗鞍高原は単なる観光地ではなく、そこには多くの住民が暮らす「生活」があります。昨今、住民生活においても高齢者の増加や住民世帯数の減少等に伴い地域住民の移動手段の確保や子供たちの通学環境等多くの課題が山積しています。

そこで、住民自治組織である「大野川区」が核となり、高齢者の通院・買い物等に資する移動手段の確保や中学卒業後も高校等へ乗鞍から通学できるような仕組・体制の構築をしつつ、新たな移住定住につながる取組を推進することで、乗鞍での暮らしの維持、ひいては持続可能な地域社会の実現をめざします。

主幹分科会

地域生活支援 PT、移住推進 PT

取組みの方向性とアクションプラン【取組主体：目標達成期間】

■ 高齢者や子供たちが安心・安全に暮らせる体制づくりに挑戦

| 目標 | 具体アクション | 完了期間 | 取組主体 | 達成期間 |
|----------------------------|----------------------|-----------------|-----------|------|
| 通院・通学・買い物に対する地域の住民の移動手段の確保 | ・地域送迎システムの構築 | R10 年度 (3年間) | 地域生活支援 PT | 継続 |
| | ・高齢者宅の草刈り、雪下ろし等の作業実施 | 継続 | | |
| | ・協力者確保のための検討 | 継続 | | |

■地域外からの移住・定住促進や地域との関係人口づくりへの挑戦

| 目標 | 具体アクション | 完了期間 | 取組主体 | 達成期間 |
|--|--|----------------|------------|------|
| 地域との関係人口づくりを推進すること、移住定住を推進 | 移住広報活動の強化（noteにて、暮らし・仕事・人・学校をテーマにした情報発信／月3記事程度・各セミナーへの参加・長野県モデル地区） | 毎年度 | 移住推進 PT | 継続 |
| | 空き家情報の整理と掘り起こしの継続（地域住民への空き家調査やヒアリング・活用可能な空き家のリスト化） | R10年度 （3年間） | | |
| | 空き家と移住希望者のマッチング（所有者と希望者の調整支援） | 毎年度 | | |
| | 地域住民と行政との連携体制構築（行政（地域づくりセンター・移住交流推進室・教育政策課・住宅課等）、学校、PTによる定期的な情報共有会議の設置・役割分担の明確化） | 毎年度 | | |
| デュアルスクール利用中・移住後の定着支援（地域活動への参加サポートや困りごとのフォローアップ等の体制を明示） | R9年度 （2年間） | | | |



のりくら高原
ミライズ

のりくら高原ミライズ

編集・発行 のりくら高原ミライズ構想協議会

令和3年3月22日 初刷1刷発行

令和3年6月17日 一部修正第2版1刷発行

令和8年3月16日 改訂版第3版1刷発行